



集落支援だより

皆さんこんにちは！

地域おこし協力隊 集落支援担当の佐々木です。

今月は奥川地区で開催されたイベントについて紹介します。



地域おこし協力隊 集落支援担当

ささき かずよ
佐々木 和代 隊員

歴史と文化にふれる 「岩屋虚空蔵尊祭礼」

9月13日、奥川・出戸自治区にて「岩屋虚空蔵尊祭礼」が行われました。虚空蔵尊建屋は約500年にわたり町や集落の皆さんによって大切に守られ、町の重要文化財である木造虚空蔵菩薩座像が祀られています。集落の歴史を感じる貴重な場所です。

当日は、ZEN大学や福島大学・岩崎ゼミの学生をはじめ、約40名が参加。学生たちは慣れない山道を登りながらも、自然の美しさと静けさを楽しみ、約30分かけて岩屋を目指しました。岩屋では、集落の人から説明を受けたり「おびんずる様」を持ち上げる体験をしたりと、集落の文化に触れる貴重な機会となりました。

私たち集落支援チームは道案内を担当し、岩屋までの道を2〜3往復して参加者の皆さんのサポートを行いました。参拝後には、赤飯のおにぎりがるまわれ、地域の皆

さんとの温かな交流も生まれました。
来年の祭礼に向け、引き続き集落とのつながりを大切にしていきたいと思っています。



▲岩屋虚空蔵尊祭礼にて福大生の皆さんと

黄金色の田んぼで 秋の実りを体感！

10月5日、春に田植え体験をした田んぼで稲刈り体験をしました。前日の夜には、奥川みらい交流館で交流会が開かれ、カレーを食べながら参加者同士の親睦を深めました。当日は、朝から小雨まじりの空模様でしたが、開始時には雨も上がり、無事に稲刈りを実施。参加者の多くは奥川に何度も訪れているリピーターの皆さんで、今回は



千葉商科大学の教授・学生もフィールドワークの一環として加わり、にぎやかな雰囲気の中作業が行われました。
参加者の皆さんは、岩橋集落支援員から鎌の使い方や稲束の縛り方のレクチャーを受け、ぬかるんだ田んぼに足を取られながらも真剣な表情で稲を刈り取りました。皆さんからは「思った以上に大変だった」「お米のありがたさが改めて感じた」といった声があり、貴重な体験となったようです。

作業後は、収穫した田んぼを眺めながら、あぜ道でおにぎりを頬張る昼食タイム。自然の恵みに感謝しながらのおにぎりの味は格別でした。



私にとって、移住後初めての冬がすぐそこまで来ています。不安もありますが、それ以上に、しみみ気持ちも大動量も増え、地元の良い食べ物にも囲まれて以前よりずっと健康的な生活を送っています。

これから訪れる雪国ならではの暮らしをしっかりと体験しながら、元気に冬を乗り越えていきたいと思っています。